

## 読売新聞 きょう（11月29日）のイチ押し

### 1面・2面 廃炉原発 建て替え推進 経産省案

経済産業省は、今後の原子力政策の方向性と行動計画の原案を有識者会議「原子力小委員会」に提示しました。新たな原発の建設は「想定していない」としてきた東日本大震災以降の政府方針を大きく転換する内容です。

- ★ 原案では、次世代原発について「安全性の確保を大前提として、新たな安全メカニズムを組み込んだ次世代革新炉の開発・建設を進めていく」と明記。まずは廃炉が決まった原発の建て替えを対象に開発や建設の具体化を進めるとしています。
- ★ 原発の運転期間は現在、原子炉等規制法で「原則40年、最長60年」と定められていますが、運転期間の上限は残しつつ、原子力規制委員会による安全審査などで停止していた期間を運転期間から除外することで、実質的に60年を超える運転も可能にする方針です。

### 1面・社会面 コロナ・インフル同時検査キット市販へ

新型コロナウイルスと季節性インフルエンザを同時に調べられる抗原検査キットについて、厚生労働省は、薬局での市販化とインターネット販売を解禁することを決めました。

- ★ 自宅で検査できるようにして、発熱外来の逼迫（ひっぱく）を避ける狙いで、厚労省は12月中にも流通させたい考えです。これまでは医療機関での使用に限定されていました。
- ★ 一方で、専門家などからは検査精度を不安視する声も出ており、「陰性でも安心せず、症状が続く場合は医療機関の受診も検討してほしい」と呼びかけています。また、キットの生産量には限りがあり、十分に流通するかも不透明な状況です。

#### 他紙と比べて

本日朝刊の最終面がいつもと違うことに気づかれたか？ テレビ欄の次の面に、裏表でセットになった斬新なデザインの全面広告を掲載しています。フランスのファッションブランド、ルイ・ヴィトンの広告で、日本を代表するアーティスト草間彌生さんを起用。「目力」が何とも印象的です。新聞広告の新しいかたちをお楽しみいただければ幸いです。